

寒くて暗くて怖かった

絶対忘れてはいけけない日

語り継ぐ
3・11

石巻市奇磯浜出身で
発災当時、保育園年長
児だった渡辺帆香さん
市立桜坂高校3年
に就いて東日本大震災
は「今は怖くて思い出
したくない出来事」。
奇磯小、牡鹿中に進学。
家族を亡くした同級生
もあり、友人とは震災
の話題を避けてきた。
それでも「知らない人
には知ってほしい。絶
対忘れてはいけけない



「被災したからこそ得られた知識
があり、周囲の支えを実感できた」
と話す渡辺さん

日」と続ける。
渡辺さんは発災当
時、牡鹿半島大原地区
の保育園にいた。間も

なくおやつ時間とい
う時に揺れが起き、棚
が崩れ、園児の泣き叫
ぶ声と保育士のなだめ

る声が響いた。しばら
く園に待機していた
が、園児を迎えに来た
保護者が「津波が来る

ぞ」と呼び掛け、全員
が内陸の大原中に避難
した。
「記憶はあいまいだ
が、とにかく寒くて暗
くて怖かった。知ら
ない人が『これ食べ
な』と笹かまぼこをく
れたのをかすかに覚え
ている」。後に保育園
が津波をかぶったこと
も知った。「保護者の
声掛けがなければ命が
危なかった。今思うと
ゾッとする」。

桜坂高3年

わたなべ ほのか
渡辺 帆香さん(18)



通っていた保育園での一枚
(上段左から2番目が渡辺さん)

家族は全員無事。高
台にあった自宅は津波
被害はなかったが、大
規模半壊で住める状況
ではなく、改築が済む
までは蛇田中や奇磯小
の体育館などで避難所
生活を送った。
実家はホヤとホタテ

の養殖業。父が沖に避
難させた漁船以外、仕
事道具は納屋ごと流失
した。東京電力福島第
一原発事故に伴う輸出
制限のあたりも大き
く、苦境に立たされる
両親の姿が強く印象に
残る。「なぜこんな大

変な思いをしなければ
いけないのか」と感じ
ていた。
同級生で家族を亡く
した友人もあり、幼心
ながら「震災の話はし
てはいけない」と、で
きるだけ悲惨なことは
思い出させないよう気
を配った。高校に進ん
でも変わらず、友人と
震災を話題にすること
は滅多になかった。
毎日見ていたはずの
古里・奇磯の震災前の
景色は全く覚えていな
いが、あの日の出来事
は深く脳裏に焼き付
く。それだけ強烈な出
来事だった。おそらく
渡辺さんら今の高校生
が当時の生の記憶を語
れる最後の世代とな
る。

「友人の前では震災
の話はタブーにしてい
たが、震災は絶対に忘

れてはいけけない出来事
だと思っし、後世に伝
えるべきとも思う」と
渡辺さん。「被災した
からこそ得られた知識
もあり、ボランティア
の助けから周囲の支え
も実感できた。結婚し
て子どもができたら絶
対に当時のことを教え
るし、震災を知らない
他地域の人も伝えた
い」と真つすくなまな
さして語った。

先日、高校卒業式が
あり、春からは仙台市
内の調理師専門学校に
進む。「しっかりと学ん
で知識や技術を深め、
調理師の免許を取って
県内で就職したい。た
くさん大変な思いをし
た両親を安心させた
い。早く親孝行がした
いですね」と目標を
語っていた。

【泉野帆薫】